

反社会的傾向のある女子中学生との人間関係づくり

反社会的傾向のある女子中学生は、教師の指導姿勢に対して非常に敏感です。私たち教師が、彼女たちと人間関係を築くうえで、どんなことに気をつけて指導したらいいのかを考えましょう。ここでは、

- ・ 彼女たちと接するときの心構え
- ・ 彼女たちをリーダーとして認める時、我慢させる時
- ・ 具体的事例を通して

の3点についてまとめました。

1 彼女たちと接するときの心構え

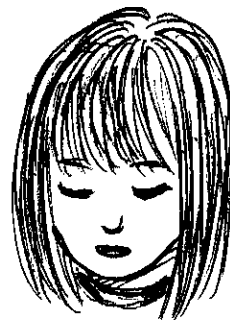
「あれ？」と思った生徒の様子に対してどう声をかけるかは、教師の誰もが迷うことです。しかし、「あなたのことを心配している」という気持ちを込めて話しかければ、どんな言葉であるかは、それほど問題ではありません。ただ指導に当たって、次のようなことを配慮しましょう。

(1) 日頃からの人間関係作り

① いつも生徒のそばに

職員室にすぐ戻ってこないで、朝の会の前、給食の配膳中やごちそうさまの後、帰りの会后などに、生徒と教室の片付けでしながら、いろいろな話をしましょう。

生徒とちょっと立ち入った話をしたいときは、座っている生徒の隣に座って、生徒と同じ方向を見て話すようにしましょう。隣に座っても、逃げなければ、話ができる見込みがあります。



② 受け入れの合図を送ろう

私は、生徒と目が合ったのに、手が離せないときやどのように話しかけるかを迷ったときには、とりあえず手を挙げて合図だけしています。反社会的傾向の生徒も、手を挙げて応えてくれます。言葉の挨拶は、声が届く距離でないといけませんが、これならずいぶん遠くからでも相手に見えます。何もしないと『無視』したことになってしまいます。女子中学生は、無視には敏感です。

③ 一人一人を気かけながらも、平等に

彼女たちは、「私ばかり注意する。」という思いをよく持ちます。だから、「他にも違反している子はいるよ。」という反発には、素直に耳を傾け、全校的な服装点検などがあるときは、厳密に同じ基準で指導することを心がけましょう。彼女たちは平等にこだわり、ひいきを嫌います。

また、友だち批判には、安易に相づちをうたず、相手の立場も考えられるように話しましょう。「ここだけの話だが、〇〇さんには、先生も困っている。」などという話は、簡単に広まってしまいます。

(2) 小さな心の揺れへの対応

① 変化を見逃さない

ピアスや深夜徘徊にいたる前に、小さな変化が見られることがよくあります。心の揺れがどのように表れるかを表にしました。(次ページ) 生徒からのサインとして見逃さないようにしましょう。

【生徒の心の揺れのサイン例】

	身なりにあらわれること	仲間関係にあらわれること	生活態度にあらわれること
初期段階	<ul style="list-style-type: none"> 靴のかかとを踏む。 スカートを少し短くする。 爪をのばす。 セーラー服のリボンをつけない。 髪型に気を使う。(色付きのピンやゴム紐) 名札をつけない。 上靴として体育館シューズを使う。 シャツを出す。 まゆげを細くする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達関係のことを小さい手紙紙にしきりに書いて交換する。(やがてメール交換につながる。) 特定のグループでいつも行動する。 「〇〇がむかつく」と、よく言うようになる。 保健室によく行く。 給食や掃除などの当番活動をさぼり始める。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学かばんにやたらとマスコットを付けたり、落書きをしたりする。 学校の机にシールをはったり落書きをしたりする。 机やいす等のネームシールを勝手にはがす。 予鈴遅刻が増える。 注意すると「うっとおしい」と反抗する。
進んだ段階	<ul style="list-style-type: none"> マニキュアをぬる。 指輪や腕輪をする。 髪を脱色・染色する。 化粧をする。 耳にピアスをつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 夜、長電話をする。 携帯電話を購入する。 集団でいじめをする。 深夜に出歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> 怒ると物を叩いたり、蹴ったりする。 タバコを吸う。 万引をする。 シンナーを吸う。

② 養護教諭、相談員、校務員、調理員の人たちとの会話を大切に

心が不安定になっているとき、彼女たちは、養護教諭や相談員などに悩みを打ち明けることがあります。1日に1回は、空き時間などを利用して、保健室や相談室に足を運び、「うちの学級の生徒は、来てませんか？」と尋ねましょう。また、反社会的な傾向の生徒は、校務員や調理員、給食の栄養士から、声をかけてもらうこともよくあります。

③ 根気よく声をかけ続ける

例えば、服装違反は、法律に触れることでもなく、「時間を守らないと、みんなが困る。」といったことでもありません。シャツ出しも茶髪もピアスも世の中に溢れています。しかも、高校入試や入社にあたっては、誰もが覚悟を決めて、整えてしまうのです。だから、反社会的傾向の生徒には、「何がなんでも、守らせる。」と高圧的には、接しないことです。毎日「シャツを入れなさい。」と言いつける粘り強い指導が必要となります。

(3) 指導するときに人間関係を深めるチャンス

① 曖昧な指導をせず、厳しい態度が信頼関係を生む

彼女たちが「うっとおしい。」と言っても、臆することなく、必要なことは、はっきりと注意しましょう。身なりに関しては、基準となるよりどころを明確に伝えます。全教師が校則を理解し、説明できるようにしましょう。「生徒指導の先生に、いいか悪いか聞いて来い！」では、信頼されません。

② くどいと、嫌われる!

「スカートは短いし、シャツは出しているし、名札も付けていない。」と幾つも注意したいのですが、一つのことにとこだわって、1日に1回忘れずに注意しましょう。また、指導中に、“ついでに”ということで、服装や持ち物、以前のことを持ち出しての他の指導をしないようにしましょう。

③ 一緒に活動を

例えば、給食当番をさぼっている生徒には、マスクなどを用意してやり、一緒に配膳をすることで、彼女たちの「カッコ悪くてやれない」気持ちを「しかたないなあ」に変え、心の中に責任を果たしたという満足感を味わわせましょう。

④ 一人で抱え込まないで

自分一人で、生徒を何とかよい方向へと思っても、難しいです。学年主任や生徒指導主事、教頭、校長の力をどんどん借りましょう。女子中学生は、温かく包み込むような「おっかさん」のようなベテラン女性教師が支えになることや、「お姉さん」のような若い女性教師が相談役になることも必要となります。

(4) 親との人間関係づくり

① 親に会いましょう

電話よりも、顔を合わせての会話がいいです。生徒の様子で心配なことがあったら、家庭訪問して話をしましょう。“電話で済ませたい”は、いけません。女子中学生の場合は、深夜の外出や外泊、異性関係が心配です。親と連絡を取り、とくに父親の行動を促しながら、親がどうしたいと考えているのかを明確にして、私たち教師は協力を惜しまないようにしましょう。

② 教師は語り過ぎない

親が相談したいと言ってきたら、まず相手の話（ぐちっぽくなることも多いですが）をじっくりと聞きましょう。親だって、困っているのです。「こうすれば、いいではありませんか。」とか「このように接して下さい。」とか言っても、やれるぐらいならば、子どもが荒れて困ることはないのです。

2 彼女たちをリーダーとして認める時、我慢させる時

反社会的傾向の女子生徒が、学級で仲間との関わりを持とうとするが故に起こす問題もあります。その対応の仕方によって、人間関係が深まることもあるし、壊れることもあります。彼女たちが、応援団などに立候補したときの対応に困ることがよくあります。

【 A子が応援団の責任者に立候補してしまった! 】

応援団の責任者に反社会的傾向のあるA子が立候補すると言い出してしまいました。事前の学年会では、「うちの中学校では、反社会的傾向の生徒は立候補しないから、心配しなくてもいいよ。」ということでしたので、安心していましたが、とても困ってしまいました。「応援団というのは、全校のリーダーなのだから、生活態度もしっかりしていないといけない。おまえは、がんばってはいるが、他の生徒と比べると、まだまだだ。リーダーになるのは、難しいと思うけどなあ……。」と、はっきりしない返事をしました。

A子は、諦めかけましたが、友達の子が私に食ってかかってきました。「やりたい意欲のあるものが、どうしてやれないの。他には、立候補も出ていないし、生活態度もこれからは、きちんとやると言っているのだから、やらせてあげてよ。」そういう周りの声に押されて、彼女も「私、やっぱりやりたい。」と意欲を示しました。

学年の他の先生からは、「あんな子がリーダーになつては、しめしがつかない。」「やりたい子ではなく、やれる力のあ
る子がやるように、指導して下さい。」と言われ、困ってしまいました。しかし、A子のやる気を押さえることができな
くて、結局、他の先生には、「私が責任をもって面倒をみます。生活態度も、悪いところがあったら、やめなければなら
ないと本人にきちんと話しておきますから、今回だけは、やらせてもらえませんか。」と頼み込むことにしました。A子
は、団員の前で頑張ることを誓い、応援団の責任者として認められました。

彼女は、応援団の雑用やまとめ役をそれなりにやりきり、生活態度もまあまあの状態でした。団員にもよくはたらき
かけ、呼びかける手前、自分も大きな声を出しました。かなり影響力のある子でしたから、団員は表だった不満を言わ
ず（もっとも不満を言うような仕事ぶりではなかったのですが）、協力していました。

体育祭は、無事終わり、その後、私は、A子と反りが合わなくなることもなく、彼女は卒業していきました。

反社会的傾向の生徒は、短期間の役割ならば、やる気をみなぎらせてやりきることが出来ます。行事関係
の役割、特にみんなの前で喝采を浴びる応援団は、張り切って務め、その間は生活面でも改善がみられます。
その支えをすることで、人間関係を深めることは難しくはありません。

しかし、全校態勢で、反社会的傾向の生徒がリーダーとなるのを我慢させる場合があります。

【 あなたを応援団員として認めることはできない！ 】

応援団員に立候補したB子に「今までの生活から、リーダーとして認められない。」と言いました。このときは、事
前に全校職員で話し合い、応援団員の条件「みんなから信頼される生活をしている」を生徒会を通して提示していまし
た。応援団員になれなかったB子は、最後まで応援の練習には参加せず当日も競技には参加しましたが、応援合戦のと
きは抜け出しました。

B子は、「どうして今年から、こんなに厳しいんや。」とさかんに言いましたが、体育祭後は、それほど荒れることも
なく、私とも以前の通り接してくれました。応援に参加しなかったのは、彼女なりのプライドの表現だったのかも知れ
ません。

翌年からは、反社会的傾向の生徒が応援団に立候補することはなくなり、真にまとめる力があつたりリーダーとして
ふさわしい生徒が応援団員になり、いわゆる応援団がらみで生徒指導上の問題が発生することはなくなりました。応援
合戦も、応援団員だけが宙返りをしたり、派手なパフォーマンスをするのではなく、生徒全体の体や手の動き、声の揃い
具合など、集団としての高まりを目指す応援に変わっていきました。それは、学校全体が落ち着いていく流れと重な
っていました。

学校全体の状況から、真面目に行動している生徒を支
えて伸ばすために、日頃の生活態度をもとに反社会的傾
向の生徒をリーダーとして認めず我慢させる場合もあり
ます。そのときは、全職員で共通理解した上で、あらか
じめかなり早い段階で「どういう生徒がその役になれる
のか」をはっきり生徒に伝えておく必要があります。そ
して、とくに反社会的傾向の女子生徒に対しては、具体
的事実をもとに諦めなければならない理由をはっきり伝
えることを避けてはいけません。一時的に気まずい関係
になっても、きっといつか分かってくれます。



3 具体的事例を通して

反社会的傾向のある女子中学生を念頭に置いて書きましたが、多くは、男子生徒にも当てはまります。もっといえば、一般的な人間関係づくりにも当てはまります。結局、生徒を見下げるような態度を取らず、しかしながら学級の責任者として自覚を持って、真正面から生徒にぶつかるのが、人間関係づくりの基本ではないでしょうか。そして、反社会的傾向の生徒だけが学級の生徒ではないことを自覚し、学級の一人一人の子に、等しく心を寄せて指導をしましょう。

最後に、女子中学生との関わりの中で、教えられたことを二つ紹介します。

(1) 臆することなく

曖昧な表現は、女子中学生をいらつかせます。はっきりと駄目なものは駄目と言い切り、「こんなことを言ったら、生徒は自分を嫌いになってしまうのではないか。」などと心配しないことです。

【多くの女子生徒から嫌われた学級担任のにやけ笑い】

新採2年目で初めて学級担任をしたときに、学級のほとんどの女子生徒から嫌われたことがありました。自分では、熱心にやっていたつもりだったのですが、ついつい生徒に嫌われないように、そのことばかりに気を配っていたのでした。

教師用の椅子の上に給食のジャムが置いてあって、知らずに座った私のスポンが汚れてしまうことがありました。私は、怒鳴ることもなく、「いたずらの競争でもしょうか。」と笑っていました。万引の指導を全学級で行うことがありました。私が、「ものを黙ってもらっていきようなことは・・・」と話しかけたとき、「万引はあかんって、言えばいいものを～」と大きな声の独り言。私は、聞こえなかったかのように話を続けました。

自分では、気付かなかったのですが、そのような生徒への『遠慮』がかえって溝を大きくしました。いつの間にか、私が机間巡視すると、女子生徒は、私の体が机に触れないように机を大げさに動かすようになりました。私が話しかけると、彼女たちは大げさに体を反って、私と顔が近づかないようにしました。そして、ある日、教室の私の机の上に「おまえは、今までで、さいさいさい最低の担任や。(大きく)死ねー。笑うと気持ちが悪い、いつも同じ服を着るな、汚い。口が臭い。・・・」と、目一杯書かれたわらばん紙が置いてありました。

教師をやめようかと思いましたが、生徒と向き合うことを避けたままでは、やめることもできないと思い、一つ一つの言葉に返事を書いて、学級の生徒に配りました。『死ね』という言葉は、他人に対して決して言うてはならない言葉だ。」と怒りを込めて言いながら、「歯はよくみがいているが、口臭があるなら、消臭液でうがいをします。」など改めることも付け加えて、必死で話しました。休み時間に、一部の女生徒が寄ってきて、「先生、『死ね』はひどいね。先生、もっと怒らならあかんよ。優しすぎるから。」と言いました。

それからは、生徒に余分な気を遣わず、言いたいことを言いたいようにぶつけました。学級の締めくくりに行った文集に、ある子が、こんなことを書きました。

私は・・・このクラスって、ちょっと他のクラスに比べて『いん気くさい』っていわれるけど、本当はとっても明るくて、別にたいした問題もないし、ちょっとそうぞうしくてさわがしくって、落ち着きがないクラスだけど、大好きです。また、友情ってものも知ることができました。できたら、3年間このメンバーでやってゆきたかった。1の8、本当に ばいばい。

嫌われるのではないかと余計な心配をしないで、自分の考えを真正面から生徒にぶつけることが人間関係をつくる土台だと分かった1年でした。

(2) 焦らず、あきらめず

子どもたちは、長い人生の中のわずか6年間や3年間を小中学校で過ごすわけですから、ともすると、私たちは、学校に在籍している期間だけで全てを解決しようと焦ってしまいます。女子中学生の場合は、特に結論を急がず、ゆったりと接しましょう。その子が、決心するまで、諦めずに、寄り添いましょう。それこそ、卒業してから私たちの思いが伝わることだって、しばしばあるのです。

【金髪を黒く染めたC子のその後】

6年前に、髪を金色に染めて授業もさぼりがちな3年生のC子がいました。私は、生徒指導主事をしていて、C子とかなり話せるようになっていましたが、私を信頼しているというわけではありません。

ある時、彼女がぼつりと話しかけてきました。

「先生、髪を黒くして、頑張ってみようと思うけど、どうしようかなあ。」

「それなら、すぐ落ちてしまうのは駄目だから、美容院できちんと染めよう。その方が髪も悪くならないし・・・。」

「一緒に行ってくれるなら、染めてみようかなあ。」

授業をさぼっているときでしたが、職員室に連絡し、学校の近くの美容院を一緒に回ることにしました。最初の店では、迷っていましたが、結局、外に出てきて、

「先生、この店は、古くさいから、やめよう。」

と言うので、次の店を探しました。店の人の印象が悪いとか、設備がよくなさそうだとか、色々と難癖をつけて、うだうだしていましたが、焦らずにつき合いました。学校の周りを2周ぐらいしたとき、やっと本人も決心したらしく、「ここでいい。」というので染めることにしました。C子はお金を持っていなかったもので、私が立て替えて前払いしました。6000円ぐらいだったと思います。染めるには時間がかかるということなので、店の人に頼み、自分の授業に戻りました。

ところが、1時間ほどして戻ってきたときには、C子は、すごい剣幕でした。「私は、こんなに真っ黒になるとは思わなかった。どうしてくれるんや。」と捨てぜりふをはいて、家に帰ってしまいました。その後も、C子を何かにつけて指導しましたが、髪を染めた件については、お互いに深く触れることはありませんでした。「染めた代金は、出世払いでいいぞ。」と話したことも忘れたまま、彼女は卒業していきました。卒業後、2、3回葉書のやり取りをして励ましましたが、その後、便りは途絶えました。6年後、突然1通のはがきが届きました。

先生、お久しぶりです。元気になりましたか？私は、ふつうです。先生が元気かどうか気になってハガキを出します！！ここしばらく先生と会って話してもいないから何だか気になって・・・。

今、私は、毎日、お母さんと一緒に、家の仕事を手伝っています。身内と一緒にの仕事場だと、たまにゆうずうがきかない時もあるけど、今もう2年一緒にやっているよ。（中略）

先生は、今、どこの学校にいるの？教えて下さいね。のぞきに行きます。それでは、また手紙 or ハガキを出します。

P. S 今度、一緒にお酒を飲みましょうね。私の金髪を染めた時のお借りしていた代金をふくめて出世払いでおごりまっす！！それでは。